

同志社大学国文学会彙報

昭和六十二年度国文学会活動状況

△国文学会総会△ 十一月二十三日 本学至誠館会議室

・総会

・研究発表

「菅原道真の『玄談』——『莊子』成玄英疏の利用——」

谷口 孝介氏（本学大学院博士課程）

「万葉集 一八九〇『思御』存疑」

吉野 政治氏（同志社女子短期大学）

・講演

「中国古典劇における『死』の表現」

向井 芳樹氏（本学教授）

△同志社国文学二十九号△ 三月二十日発行

昭和六十二年卒業論文題目

『古事記』における力競べ伝承——その基層と構造——

藤本憲二

ワザラキの系譜

——『古事記』神話の深層——

福永光夫

異神の言向け

——『古事記』における古代天皇の神話と叙述——

川嶋範夫

モノ神伝承考

——『古事記』神話のコスモロジー——

大立目康孝

記・紀におけるササノヲノ命

李芝恵

『古事記』の神話性と歴史性

——古代天皇制コスモロジー——

仲谷浩一

古代における神婚神話の意味

金鉉煬

神人の闘争伝承考

——『古事記』の神話とテキスト——

藤原崇宏

荒ぶる神々の神話の基層

——伝承史的方法による『古事記』の一考察——

岩井忠彦

闘争と呪福

——『古事記』神話の一考察——

松尾耕司

出雲神話についての一考察

——『古事記』神話と伝承——

高畑又広

柿本人麻呂

—— 齋宮挽歌とその歌の場をめぐる —— 樋口真也

万葉集における行路死人歌の表現構造 高鍋由紀子

木花之佐久夜毘売の神話の考察 森川博有

源氏物語における女三宮の造型

—— 内親王の特質について —— 早川敦子

『源氏物語』における予言の方法と働き

—— 「光る君」と「かがやく日の宮」をめぐる —— 洞紀代子

竹取物語における和歌の役割 宮田麻見

『源氏物語』における紫上の造型と和歌の方法

森久美子

『源氏物語』の方法

—— 匂宮・紅梅・竹河の三帖をめぐる —— 中川富美代

『源氏物語』の方法

—— 桐壺巻を中心に —— 西村弘仁美

『源氏物語』和歌の方法

和歌によって構築された物語の方法 野間賢治

『源氏物語』の方法

末摘花巻と玉鬘巻の冒頭を手懸りに 小川紀子

『源氏物語』における話者の介在の方法

—— 賢木巻・帚木巻を中心に —— 大西恵

六条御息所の母性と物怪出現

『源氏物語』における和歌の方法

—— 空蟬巻々末歌を中心に —— 崙山知佐

『源氏物語』の方法的特質

荒廃した庭園の意義

『源氏物語』における物の怪

—— その方法と変化 —— 竹下博志

『源氏物語』における植物中心の連関

—— 邸宅・植物・人物・色相をめぐる —— 徳増容子

『源氏物語』における「雨夜の品定め」

の機能と目的

『源氏物語』における人物の対偶構造 塚本智美

『和泉式部日記』の方法

—— 物語的手法をめぐる —— 山本由紀

『源氏物語』における歌の機能と配列について

『源氏物語河海抄』の注釈方法  
猿神退治伝承の方法

——伝説と昔話の質的相違——

『源氏物語』における贈答歌群の構成

『源氏物語』の方法的特徴

——光と闇の対比——

平家物語における御霊の系譜

俊寛説話について

『平治物語』第一類本の構想

——金刀比羅宮蔵本との比較を通して——

『延慶本平家物語』の歴史認識

『平家物語』に描かれた木曾義仲像の考察

御伽草子における異常誕生譚について

——構造分析の試みから——

『平家物語』に見る祇王説話の展開

『延慶本平家物語の世界観』

——清盛・頼朝を軸に——

『義経記』の構造

『方丈記』本質論についての考察

——「不請阿弥陀仏」の解釈をふまえて——

『百合若大臣』成立の背景について

『平家物語』における女性像

——祇王説話をめぐって——

『新古今和歌集』所収の万葉関係歌について

『義経記』における義経像

——民衆によって守られている義経——

『太平記忠臣講釈』の位置

——「忠臣蔵物」浄瑠璃の展開において——

『蘆屋道綱大内鑑』論

——三段目の道満を中心に——

『好色五人女』について

——「情を入れし梅屋物語」——

『風姿花伝』花考

——「中段に見る厩屋物語」を中心に——

『風姿花伝』花考

山脇公一  
油井光伸

芦田尚彦  
古谷学

小松節夫

服部雪法  
木本玲子

松岡孝広

三田裕子

村井宣明

岡本邦仁子

大多和宜子

佐藤淳子

篠原武志

菅野敬子  
武井一仁

玉川恭子

山田禎智

山内紀美

橋本あゆみ

渡邊めぐみ

海老名麻子

古川文子

古川文子

古川文子

『好色一代男』及び『諸艶大鑑』における

太夫像について

影山美樹

芭蕉紀行文における出典傾向について

川崎由香里

『仮名手本忠臣蔵』の作者と成立について

小林英司

芭蕉の紀行文の変遷について

——散文と発句の関係から——

間瀬晶子

『心中天の網島』近世ロマンのあり方

行方恵美

近世世浄話瑠璃の画期性

——心中物の比較を通して——

西川知志

『心中宵庚申』『心中一ッ腹帯』考

佐伯英子

「奥の細道」における芭蕉のフィクションについて

——空白の二十六日間の謎からの脱出——

坂井祐二

『仮名手本忠臣蔵』をめぐって

——その先行作品と構成——

清水克敏

『傾城反魂香』について

竹村洋子

山田洋次「男はつらいよ」の方法

——展開パターンの分析と検討——

瀧本祐一郎

『出世景清』の新しさについて

富樫菜穂子

『夕霧阿波鳴渡』について

——夕霧劇の系譜をたどって——

外山直子

『平家女護嶋』俊寛説話考

——『平家物語』・謡曲『俊寛』との比較——

「好色一代男」の登場人物について

藪田美晴  
曾田直志

二人比丘尼色懺悔論

味沢美枝

樋口一葉『にぎりえ』のお力について

藤本恵以子

『門』——宗助夫婦の肖像——

服部弘美

谷崎文学における「女」の存在について

——『痴人の愛』を頂点として——

鹿島千鶴

島尾敏雄『死の棘』論——悲喜劇の世界——

木戸葉子

二葉亭四迷『浮雲』の世界

——お勢と文三の悲劇性——

向後薫

『こころ』論

宮川辰也

外遊における荷風

——その心境の変化をたどって——

森村朗子

「地獄変」論

森田浩行

永井荷風『溼東綺譚』

鈴木義久

「六の宮の姫君」

——芥川龍之介の創造性をめぐって——

寺嶋華子

「愛憐詩篇」とあやめ香水

「宮沢賢治における〈春〉と〈修羅〉」

金鶴泳文学論——世界からの疎外——

『行人』論——結婚のあり方——

漱石における「自己」の姿

「豊饒の海」における三島由紀夫の死生観

夏目漱石

——意識の変性と浸透、及び、  
波及する諸問題について——

中原中也とダダイズム

「ガラスの靴」にみる映画のイメージ

「Human Lost」にみる太宰治の希求

「山の音」の情景

吉行淳之介「暗室」論

坂口安吾論

——説話小説にみる孤独の風景——

横光利一「上海」論

福永武彦『風土』論

三島由紀夫「金閣寺」について

上田千絵

山口真実

金美伶

佐藤善之

山下光

末広寿治

古賀武久

千々和新

出水直美

本田まゆみ

石原俊明

柿谷ふみえ

加納秀史

黒田大河

黒田知子

丸井和也

福永武彦『忘却の河』論

「金環蝕」論

菊池寛「父帰る」論

——菊池寛が目指した「父帰る」——

三島由紀夫「午後の曳航」について

宮沢賢治「銀河鉄道の夜」夢空間の解明

——△エロス▽を視点として——

「狂言の神」論

宮沢賢治論

——「グスコープドリの伝記」を中心に——

森下雅子

中村ひろみ

里田祐子

島本敬子

杉田潤子

竹本倫子

禹晴子

和田憲二郎

平野謙論

「春琴抄」考察

——関西への移住が谷崎潤一郎に  
与えた影響について——

『大津順吉』論

安部公房と「方法」

——「バベルの塔の狸」を手がかりにして——

「道化の華」論

山下純子

山田理恵

横山裕之

吉岡晶子

葛西善蔵の「馬糞石」に見る可能性と限界  
福永武彦「草の花」論

吉岡雅昭  
仲俣映子

——節付けと常套句——  
『領域反魂香』論

野村香織

『源氏物語』の現代語訳と京ことば

——敬語と位取りを中心に——  
船越千香子

——その歌舞伎的性格をめぐって——  
木下順二と中国

早川久美子  
康小青

『源氏物語』における「謙讓語+給ふ」の

現代語訳をめぐって  
中古語形容詞の質と量

猪飼智子

——上代語形容詞との対比——  
音象徴語基をもつ派生動詞

雉鼻伸子

——とくに接尾辞「めく」「つく」を中心に——

芥川龍之介の「王朝物」における文体論  
山本有三の表記意識と表記法

三好公子  
内藤茂子  
小野ゆり子

### 昭和六十二年度修士論文題目

『古事記』における天孫降臨神話考

——韓国神話との比較研究——  
金貞美

『常陸国風土記』割注考  
神尾登喜子

「説経節」の構造